

第1学年 道徳学習指導案

い組 男子20名 女子20名 計40名
指導者 中村 太一

1 主 題 名 ゆうきをだして

1-(3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、よいことと悪いことを区別して行動することの大切さに気付き、進んで自分や周りの人たちのためになるよいことや正しい行いをしようとする気持ちをもって努力してきている。しかし、集団生活に不慣れであることから引っ込み思案になったり、ものおじしてよいと思うことを進んで行うことができないことがある。このようなことから、この期の子どもたちに、自分でよいと思ったことは遠慮しないで進んで行うことができるように励まし、よいことを進んで行い、いつもすっきりした心で、みんなと助け合いながら生活していこうとする態度を育てる必要がある。

本主題では、悪いことだとわかっていることを止めることができない場面で生じる心情や心情の変化を、自らの体験場面での内面と重ね合わせて類推しながら追究する活動を通して、よいことを進んで行い、いつもすっきりした心で、みんなと助け合いながら生活していこうとする心情を育てることをねらいとしている。さらには、よいことと悪いことを区別して、進んで自分や周りの人たちのためになるよいことや正しい行いをしようとする生き方は、自他共に心がすっきりすることやみんなが助け合うことができるようになることに繋がるというよさを実感し、これからの生活に生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

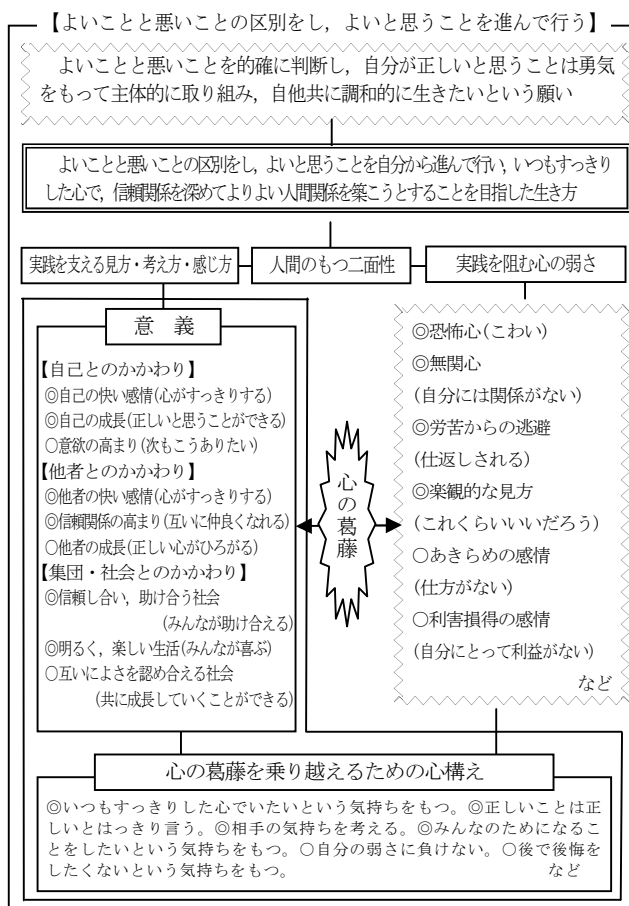
このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、正しいと判断したことは勇気をもって行い、正しくないとは判断したことは勇気をもってやめる生き方を追究していく学習へと発展していくことになる。

(2) 指導の基本的な立場

よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うことについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析するとこの図のようになる。

よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うためには、よいことだと考えながらもそれを実践することを阻む心の弱さを乗り越えて、自分が正しいと思ったことを行っていく心の強さが求められる。それを支えるものが、「心がすっきりする」「互いに仲良くなれる」といった意義であり、推し進めていく原動力となるものが、「いつもすっきりした心でいたい」「正しいことは正しいとはっきり言う」といた心構えであると考えることができる。

ここではよいことと悪いことを的確に判断し、自分が正しいと思うことは勇気をもって主体的に取り組み、自他共に調和的に生きたいという願いを基に、よいことと悪いことの



◎は重点的な学習内容

区別をし、よいと思うことを自分から進んで行き、いつもすっきりした心で、信頼関係を深めてよりよい人間関係を築こうとすることを目指す生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。

具体的には、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを自分から進んで行くことが、自他共に快い感情になり心が安定することや自分自身の成長に繋がること、周りの人たちと信頼関係が深まり、みんなが助け合って生活できるようになることを理解させる。一方で、そうありたいと思いつつも恐怖心や楽観的な見方、無関心、労苦から逃避、などの心の弱さからなかなか実践できないことがあることにも気付かせる。そして、それらの弱さと望ましい生き方との間に起こる心の葛藤を乗り越えていくためには、いつもすっきりした心でいたいという気持ちをもつ、正しいことは正しいとはっきり言う、相手の気持ちを考える、みんなのためになることをしたいという気持ちをもつなどの心構えが大切であることも理解させる。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では、読み物資料「みみずくとおつきさま」（文溪堂）を取り上げることにした。この資料は、次のような粗筋である。

楽しく学校ごっこをしているもぐらたちの中に、いたちがやってきて先生役のもぐらに意地悪をする。子ども役のもぐらたちは、口を揃えて、いたちにやめるように言うが、なかなか追い払うことはできない。それを木の上で見ていたみみずくが、さっといたちの前に降り立ち、「らんぼうはやめろよ。」と大きな声で言い、ついにいたちを追い払う。その様子を空でずっと見ていたお月さまがもぐらたちやみみずくを優しく照らすという内容である。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、子ども役のもぐらたちやみみずくの心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、動物たちの立場に自分を置き替えて考えさせたり、子どもたちの体験場面を振り返らせたりして、そこでの内容と登場する動物たちの心情とを重ね合わせて類推させることができるようにし、登場する動物たちの心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、まず資料の一読後の感想から、みみずくがいたちを追い払うために木の上から降り立った場面に焦点化し、もぐらたちやみみずくの心の弱さを共感的に追究させる。

次に、そのような心の弱さを感じながらも、みみずくが木の上から降り立った背景を追究させる。その際に、心の葛藤を乗り越え、よりよい生き方を目指していく上でみみずくが大切にしたい意義・心構えを、深く広く追究させる。そして、その様子を見ていたお月さまが、子ども役のもぐらたちやみみずくをやさしく照らした気持ちを考えさせることにより、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行くことのよさについても実感させていく。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを自分から進んで行き、いつもすっきりした心で、信頼関係を深めてよりよい人間関係を築こうとするという目指す生き方について、積極的にかかわっていこうとする意欲につながるものであると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちのよいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行くことにかかわる経験や、実践を阻む心の弱さ、実践を支える意義や心構えについての認識は、以下の通りである。

〔表1〕よいと思うことを進んで行った経験（総反応数 46）とそのときの感情（総反応数 43）についての認識

| よいと思うことを進んで行った経験 | 反応数(人) | そのときの感情 | 反応数(人) |
|----------------------|--------|-------------|--------|
| できなかったことにチャレンジできた。 | 3 2 | できてうれしかった | 1 6 |
| 家の人のお手伝いをした。 | 4 | ほめられてよかった | 1 2 |
| 自分の考えを発表できた。 | 4 | 喜んでもらえてよかった | 8 |
| 友達にやさしくできた。 | 4 | 楽しい気持ちになった | 4 |
| 電車やバスでお年寄りなどに席をゆずれた。 | 2 | 自分が成長できた | 3 |

〔表2〕実践を阻む心の弱さについての認識

（総反応数 52）

| 心の弱さ | 反応数(人) | 心の弱さ | 反応数(人) |
|-----------------------|--------|--------------------|--------|
| 恐怖心(こわくてできない) | 1 2 | 羞恥心(恥ずかしい) | 8 |
| 無関心(自分には関係がない) | 1 0 | 利害損得の感情(自分が損をする) | 4 |
| 労苦からの逃避(きつい思いをするのは嫌だ) | 8 | 外への欲求(ほかにしたいことがある) | 2 |
| 楽観的な見方(このくらいいいだろう) | 8 | | |

[表3] 実践を支える意義や心構えについての認識

(総反応数 51)

| 意義・心構え | | 反応数(人) | 意義・心構え | | 反応数(人) | 意義・心構え | | 反応数(人) |
|--------|---------------|--------|--------|------------|--------|--------|----------------|--------|
| 対自己 | 気持ちがすっきりする | 16 | 対他者 | ほめられる | 4 | 対集団・社会 | みんなにやさしくしてもらえる | 6 |
| | 自分のためになる | 8 | | やさしくしてもらえる | 4 | | みんなにほめられる | 4 |
| | 自分に利益がある | 6 | | 友達の気持ちを考える | 1 | | | |
| | 元気がでる | 4 | | | | | | |
| | 後悔しない | 1 | | | | | | |
| | 自分の気持ちを大切にしたい | 1 | | | | | | |

[表1] から、家や学校での生活の中で、これまでできなかったことにチャレンジしてできるようになりたいと感じている子どもが多いことがわかる。このことは、小学校に入学したばかりで、未経験なものに対してしっかりとできるようになりたいという意欲が高いためであると思われる。しかし、[表2] からわかるように、未経験なことが多いから「こわくてできない」と感じていたり、「自分には関係がない」「きつい思いをするのが嫌だ」とそのことのよさを十分に感じられなかったりして、よいと思うことを進んで行うことができないことがあることにも気付いていることが分かる。さらに[表3] から「気持ちがすっきりする」「自分のためになる」「ほめられる」「やさしくしてもらえる」などの意義について感じている子どもは多いが、「自分の気持ちを大切にしたい」「友達の気持ちを大切にしたい」などの心構えはあまり感じていないことがわかる。また、全体的に自分自身に関する認識への反応が多いことから、自己にかかわる体験場面での内面と関係付けた見方・考え方・感じ方をしている子どもが多いことがわかる。

これらの実態から、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うことへのよさを実感させるとともに、このことに対する見方・考え方・感じ方を深めたり、他者や集団・社会とのかかわりについて視点を広げたりする必要がある。

一方、道徳の時間において、本学級の子どもたちは、登場人物の心情や心情の変化、自分の考えについて積極的に発表するが、友達の考えを聞いて、自分の気持ちと重ね合わせて考えてみたり、自分の体験場面での内面と重ね合わせたりしながら見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりするところまでは至っていない。そこで、発表された中で自分が強く共感できる考えを意識させ、見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりするような働きかけを具体化していく必要がある。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、子どもたちが自己の生き方についての考えを深め、繰り返し自分に問いかけながら、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うことにかかわる生き方のよさの実感を深められるようにしたい。

ア この内容にかかわる生き方についての切実な問題意識をもたせるために、これまでの体験場面を振り返らせ、よいと思うことを進んで行うことができたときの気持ちとできなかったときの気持ちを対比させ、その矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させる。

イ 登場する動物たちの心情や心情の変化に十分に共感させるために、まず、先生役のもぐらに意地悪をしているいたちを、子ども役のもぐらたちやみみずくが追い払う場面に焦点化する。そこでは、自らの体験場面での内面を振り返らせるなどの発問を通して、「こわいな」「自分には関係ない」などの心の弱さを追究させる。

また、そのような心の弱さを感じながらも、もぐらたちのために助けに入った子ども役のもぐらたちやみみずくの心情や心情の変化を、役割演技を通して追究させたり、この後、もぐらたちとみみずくがどのような関係になるかを考えさせたりして、「互いに仲良くなれる」「助け合えるようになる」などの意義や、「正しいことは正しいとはっきり言う」「相手の気持ちを考える」「みんなのためになることをしたい」などの心構えを重点的に追究させるようにする。

さらに、その様子を見ていたお月様もぐらたちやみみずくを優しく照らした理由について考えさせ、感じ取った意義や心構えを大切にする事のよさを実感させるようにする。

ウ この内容にかかわる生き方の自覚を深め、これからの生活の中へ生かしていこうとする意欲を高めるために、授業を通して自分が強く共感できるようになった考えについて発表させるとともに、そのことについて、これからの生活の中でどのようにかかわっていききたいかを具体的な形(行為)で表現させるなど、自己評価として自分の考えをまとめる欵を設定する。

3 本 時

(1) ねらい

ア よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うことにかかわる自分自身の生き方を見つめ、自分自身のもつ心の葛藤を乗り越えて、いつもすっきりとした心で、みんなと助け合って生活していこうとする気持ちを高めることができる。

イ よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うことにかかわる見方・考え方・感じ方を自らの体験場面での内面と重ね合わせて類推しながら深めたり、広げたりすることができる。

ウ 恐怖心や無関心、利害損得の感情などの心の弱さから、よいと思うことを進んで行うことができないことがあることに気付くとともに、いつもすっきりとした心で、みんなと助けあって生活するための意義や心構えの大切さを理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

登場する動物たちの心情や心情の変化に十分共感させるために、動物たちの立場に自分を置き換えさせたり、役割演技を基にして話し合わせたりして考えさせる。その際、生活場面での体験を想起させる問い返しを行うなど、自らの体験場面と重ね合わせながら考えさせ、内容にかかわる見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりできるようにしたい。さらに、授業を通して自分が強く共感できるようになった考えについて発表させたり、そのことをこれからの生活の場面でどのようにかかわりたいか具体的な形(行為)で表現させたりしたい。

(3) 実 際

| 過程 | 主な学習活動 | 時間 | 教師の具体的な働きかけ |
|------|---|--------------------|---|
| 気付く | 1 よいと思うことを進んで行うことができたときの気持ちとできなかったときの気持ちを発表し、考えていきたい問題に気付く。 よいと思うことを進んで行うためには、どんな気持ちや考えをもつことが大切だろう。 | (分) ↑ 7 ↓ | ○ 実際の生活の場面を想起させ、よいと思うことを進んで行うことができたときの気持ちとできなかったときの気持ちを対比させ、その矛盾から問題意識をもたせる。 ○ 資料を感動的に読み取らせるために、録音CDや場面絵を効果的に活用する。 |
| さぐる | 2 資料「みみずくとおつきさま」を読んで、いいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うことにかかわる生き方について話し合う。 (1) もぐらたちやみみずくの言動や心情、心情の変化について感想をもち、発表する。 (2) もぐらたちやみみずくたちの心の弱さや迷い、いたちを追い払った場面での心の背景や気付いた意義・心構えについて話し合う。 | ↑ 18 ↓ | ○ 登場する動物たちの心情や心情の変化に十分に共感させるために、資料一読後の感想から、先生役のもぐらに意地悪をしているいたちを、子ども役のもぐらたちやみみずくが追い払う場面に焦点化する。 ㊦ 「もぐらたちやみみずくはどんな気持ちで、いたちを追い払おうとしたのだろう。」 ○ 子ども役のもぐらたちやみみずくたちの立場への共感を高めるために、もぐらたちやみみずくたちの立場に自分を置き換えて考えさせたり、役割演技を行い、発表した内容の背景にある気持ちやその理由について、演技した子に問い返したり、演技を見ていた子どもたちに問いかけたりする。その際、生活場面での体験を想起させる問い返しを行うなど、自らの体験場面と重ね合わせながら考えさせ、内容にかかわる見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりできるようにする。 ㊦ 「もぐらたちやみみずくは、どんな気持ちや考えの大切さに気付いたのだろう。」 |
| 見つける | 【意義】うれしい→正しいことがわかる→友達の手助けがわかる→友達もうれしい→見ている人もうれしい→みんなが喜ぶ→みんなが助け合う 【心構え】いつもすっきりとした心でいたいという気持ちをもつ、正しいことは正しいとはっきり言う、相手の気持ちを考える、みんなのためになることをしたいという気持ちをもつ。 など | ↑ 13 ↓ | ○ よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うことよきや大切さに気付かせるために、もぐらたちやみみずくが大切にしたい意義や心構えについて考えさせ、発表させる。 ○ よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うことよきや大切さへの見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりするために、この後、もぐらたちとみみずくがどのような関係になっていくと思うかを考えさせたり、それを見ていたお月様がもぐらたちやみみずくを優しく照らした理由について考えさせる。 |
| 深める | (3) もぐらたちやみみずくの生き方を振り返り、自分の考えと友達の考えを比べて、感じたことや考えたことを発表し合う。 3 学習したことを振り返り、いいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うことについて、どんな気持ちや考えをもつことが大切か、自分なりの考えをまとめる。 | ↑ 7 ↓ | ○ これからの生活の中で、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行っていこうとする意欲を高めるために、学習の振り返りを通して、自分なりの考えをまとめて発表させる。 その際、学習の中で特に強く感じられるようになったことなどを意識させたり、実際の生活の場面を想起させ、これからの生活の中でこのようにかかわっていきたく考えたことを、具体的な形(行為)で表現させたりする。 |
| 見通す | 4 いいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うことについて、教師の話聞く。 | | ○ 内容にかかわる教師の話聞き、子どもたちの課題が連続・発展していくようにするとともに、学習で感じたことを生かして生活していきたいという意欲を高められるようにする。 |